

# ○医学的検証について(案)

## (1) 基本的な考え方

- 現場出動及び救急外来搬送について検証対象とする。  
(平成20～21年度実績 200件:現場出動 150件、救急外来搬送 50件)
- ドクターヘリと救急車を比較した場合、①医師による患者へのファーストタッチが早いこと②搬送時間の短縮が図られるという効果が見込まれる。  
そのため、ドクターヘリの出動による効果としては、この2点が前提にある。
- このことを踏まえ、医学的有効性の判定を行うこととし、ヘリ特措法の目的としている①救命②後遺障害の軽減につながったものについて、医学的に効果があったものとする。
- このように、医学的効果の期待できる事例を明らかにし、そのような事例の際にドクヘリが優先的、積極的に活用されるよう、出動・要請のあり方を改めていく。  
→ ドクターヘリの効果的・効率的な活用につながる。

## (2) 検証方法

### ① 検証項目

八戸市立市民病院が持っているデータ項目により、医学的有効性の判定を行う。

なお、追加で調査が必要なものについては、別途県で調査する。  
(八戸市立市民病院保有データについては、別添のとおり)

### ② 検証における疾病分類方法

・手稻溪仁会病院において検証対象としている疾病分類は、以下の5分類とされ、それぞれの疾患群毎に「有効」、「不変」、「判定不能」に区分している。

ア 脳血管疾患

イ 心・大血管疾患

ウ 外傷

エ 心肺停止

オ その他

・疾患群別に有効割合を分析することにより、ドクターヘリによる搬送が、どの疾病群について、特に効果的であるかが判明すると考える。

- ・ただし、現在、八戸市立市民病院で管理している疾病分類は、聖隷三方原病院の分類と同様としており、これを対比すると以下のとおりとなる。
- ・分類方法についてご意見を伺いたい。

○手稲溪仁会病院

区分
脳血管疾患
心・大血管疾患
外傷
心肺停止
その他

○八戸市立市民病院

区 分			厚生労働省分類
第一類	第二類	第三類	
外因性疾患	交通事故	頭頸部損傷	交通事故
内因性疾患	転倒・転落事故	胸部損傷(含胸髄胸椎損傷)	労働災害
その他	その他の労災事故	腹部損傷(含腰髄腰椎損傷)	急性冠症候群
	スキーク関連事故	四肢骨盤損傷	大動脈解離・大動脈瘤
	その他のスポーツ関連事故	体表損傷(含熱傷)	クモ膜下出血
	傷害	多発外傷(主たる損傷不明)	脳出血
	自損行為	一酸化炭素中毒	脳梗塞
	中毒	急性医薬品中毒	その他
	火災	その他の中毒	
	その他の外因性疾患	溺水	
	中枢神経系疾患	窒息	
	心血管疾患	アナフィラキシーショック	
	呼吸器系疾患	熱中症	
	消化器系疾患	その他の外因性疾患	
	その他の内因性疾患	外因性CPA	
	分類不能	脳血管障害	
		脳髄膜炎	
		その他の中枢神経系疾患	
		虚血性心疾患	
		大血管系疾患	
		心不全	
		その他の循環器系疾患	
		気管支喘息	
		肺炎	
		慢性呼吸不全	
		その他の呼吸器系疾患	
		代謝内分泌系疾患	
		感染症	
		先天性疾患	
		精神疾患	
		腎疾患	
		泌尿器科系疾患	
		産婦人科系疾患	
		耳鼻咽喉科系疾患	
		整形外科系疾患	
		その他の内因性疾患	
		内因性CPA	
		分類不能	

### ③検証担当者

- ・手稻溪仁会病院では、前述のデータを元に、自病院に搬送された事例については検討部会の他医療関係者に、自病院以外に搬送された事例については搬送先の病院が、それぞれ判定している。
- ・本県における医学的有効性の判定に当たっても、客観性を保つため、八戸市立市民病院搬送分は他医療機関の医師が、八戸市立市民病院以外の病院搬送分は、搬送先（受入病院）の医師が医学的有効性について判定する。

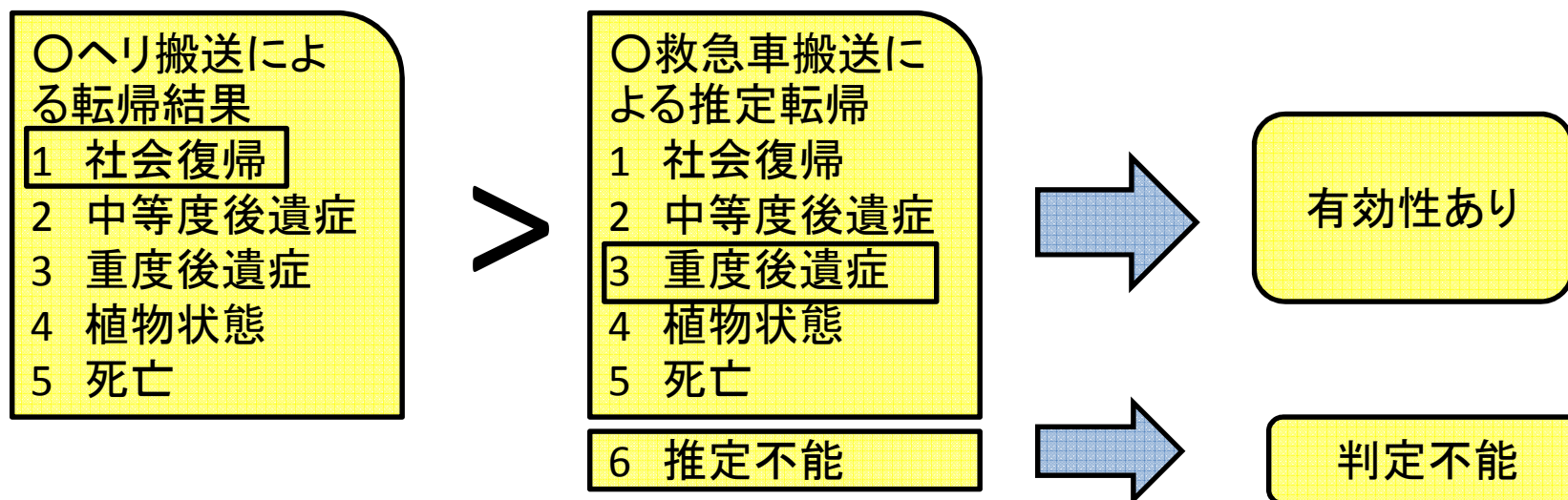
#### ○現場出動及び救急外来搬送200件の最終受入病院内訳

現場最終搬送先	八戸市立市民病院	140件	その他の医療機関	10件
救急外来最終搬送先	八戸市立市民病院	35件	その他の医療機関	15件
計		175件		25件

↑  
救命救急センターである弘大と県病が検証

↑  
搬送先医療機関検証

#### ④有効性判定の基準



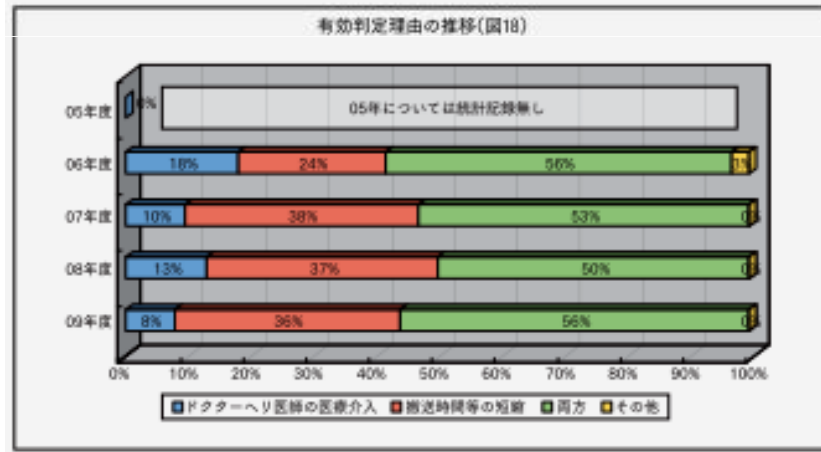
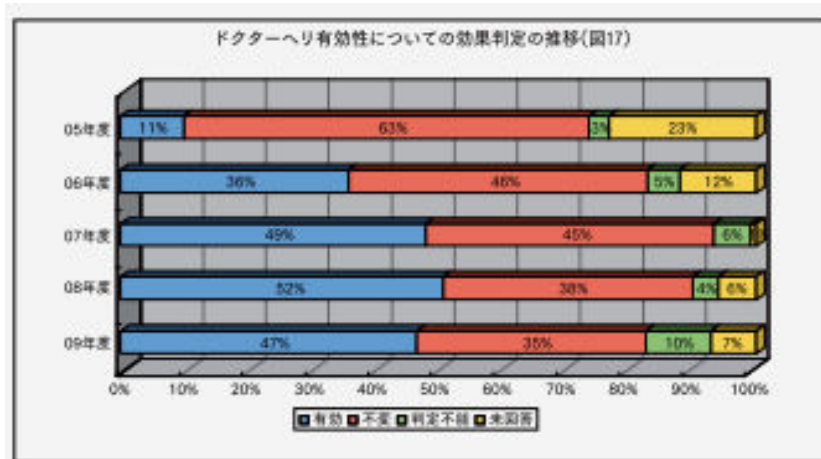
- 最終受入病院まで救急車で搬送したと仮定した際の転帰を推定転帰とする。
- その結果をヘリ搬送による転帰結果と比較し、「効果あり」「変化なし」「判定不能」別に判定する。

(課題)

推定転帰の検討に当たり、搬送先病院を最終受入病院と仮定することの適否について検討が必要。

→ 救急搬送受入基準に記載された最寄りの医療機関に搬送した場合の比較するという考え方もあると思われる。

※参考：手稲溪仁会病院2009年度道央ドクターヘリ運航実績報告書抜粋



# ○施設間搬送の状況について

- 施設間搬送については防災ヘリでも搬送が可能であり、また、全国的にも検証しているところはあまり聞かない。
- 平成21年度実績では、施設間搬送が、出動234件中20件(8.5%)を占めており、医師不足の本県においては、救急医療充実の一手段としてドクターヘリが活用されている状況もあると思料される。
- よって、転院搬送の状況を検証することで、転院搬送における課題や、効果的な運用のあり方が確認できるものと考える。
- 分析内容  
搬送元病院、搬送先病院(それぞれ疾患分類別に)、転院搬送の目的(高度・専門医療の提供、医師同乗が必要、患者の負担軽減等)、搬送時間・救急車搬送としなかった理由等